

講義録レポート

講 座	証券アナリスト	科目①	経済
目標年	2011年合格目標	科目②	
コース	1次 直前対策セミナー	回 数	1 回

収録日	2010 年 12 月 17 日		
講師名	小川 先生	講義録 枚数	2 枚 ※レポート 含まず
		補助資料 枚数	2 枚 (サイズ)

講義構成	講義 (33) 分		
使用教材	①		
	②		
	③		
	④		
配布物	有 <u> </u> 枚 (無)		
	①		
	②		
正誤表	有 <u> </u> 枚 (無)	枚	
備考			

TAC証券アナリスト講座

証券アナリスト講義録				科目	経済	コース	直前期 セミナー	回数	/
------------	--	--	--	----	----	-----	-------------	----	---

配布物	★ミニテスト：あり []	なし	★答練：問題用紙・解答用紙・解答解説	講師	小川先生
	★実力テスト：あり []	なし	★その他のレジュメ []		
	◇配布物なし				

テキスト ページ	黒板 内容
	1 次経済 直前対策 1. 概要 (90分, 90点満点, 55問程度) 第1問 ミクロ経済学 ◦ 消費者行動 ◦ 企業の生産活動 ◦ 市場均衡 ◦ 市場の失敗 ◦ ゲームの理論 第2問 マクロ経済学 ◦ 国民経済計算 (SNA) ◦ IS-LM分析 ◦ AD-AS分析 ◦ 貨幣乗数 ◦ 消費理論 ◦ 成長会計

証券アナリスト講義録	科目 経済	コース 直前期 セミナー	回数 /
------------	-------	-----------------	------

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 小川 先生
-----	--	--------------------------------------	----------

テキスト ページ	黒 板 内 容
	第3問 金融論 ◦ 金融取引 ◦ 金融システム ◦ 日本の金融市場 ◦ 日本銀行 第4問 国際金融論 ◦ 国際収支 ◦ 貯蓄投資バランス ◦ 為替レート (実質, 実効) ◦ 購買力平価説 ◦ 金利平価説 ◦ 為替市場介入

1次経済 2011年 直前対策セミナー

TAC証券アナリスト講座

経済担当：小川

はじめに — 1次経済本試験の概要

- 試験時間は90分、90点満点。
- 問題数は概ね55問程度。すべて選択問題（4択または5択）
- 大問は4つ。配点ウェイトは以下の通り。

【大問別の配点ウェイト】 新プログラム試験以降

	19年春	19年秋	20年春	20年秋	21年春	21年秋	22年春	22年秋
第1問 ミクロ経済学	19%	20%	24%	26%	27%	27%	27%	27%
第2問 マクロ経済学	43%	44%	40%	38%	39%	39%	39%	39%
第3問 金融論	20%	16%	16%	16%	13%	14%	14%	14%
第4問 国際金融論	18%	20%	20%	21%	21%	20%	20%	20%

- 第1問（ミクロ経済学）は、平成19年春から始まった新プログラム試験で初めて導入された。配点ウェイトは当初から上昇したが、最近では安定して推移している。
- 最も配点が高いのは第2問（マクロ経済学）であり、単独で約4割を占める。合格のためには第2問である程度の得点を固めておく必要がある。
- ミクロとマクロを合わせ、「経済学」と考えると、全体の6割強になる。
- 第3問（金融論）は、配点は高くないが、覚えておけば対応できる問題が多い。
- 第4問（国際金融論）では、国際収支や為替レートに関する計算問題が多い。

各分野の概要

① ミクロ経済学

- 個人や企業の経済活動についての意思決定（＝選択）や、財やサービスが取引される市場の役割とそのメカニズムについて学習する。
- キーワードとしては、需要曲線、供給曲線、市場均衡、消費者行動、企業の生産活動、不完全競争市場、余剰分析、市場の失敗、等が挙げられる。
- さらに、異時点間の効用を最大化する個人による「将来の消費＝貯蓄」の決定（異時点間消費理論）、将来の結果が不確実な状況での選択（不確実性下の選択）が取り上げられる。
- 他の経済主体の行動を勘案して意思決定が行われるケース（ゲーム理論）や、情報が十分に行き渡っていない場合の意思決定（情報の経済学）も試験範囲に含まれる。

② マクロ経済学

- マクロ経済学とは、一国経済を巨視的な（マクロな）観点から眺めて、その仕組みを分析する分野であり、一国全体の経済、金融が分析の対象になる。
- 国民所得統計（GDP）、IS-LM 分析、AD-AS 分析、フィリップス曲線、経済成長理論、等が取り上げられる。
- マクロ経済学は、本試験における配点ウェイトが最も高く（約4割）、続く2分野（金融論、国際金融論）の基礎にもなるため、幅広く学習しておく必要がある。

③ 金融論

- 金融論では、金融取引の基本的な機能・仕組みや金融システムの特徴などが取り上げられる。
- 日本の金融市場（短期金融市場、長期金融市場）に関する具体的な知識も求められる。
- 日本銀行が行う金融政策も出題範囲である。

④ 国際金融論

- 国際金融論では、国際収支や外国為替レートの見方、理論的な決定要因の学習が中心である。
- 実質為替レート、金利平価説、購買力平価説、等の考え方と、それらを応用した理論モデルが紹介される。
- 計算問題のウェイトが高いため、多くの問題にあたって計算のパターンに慣れておく必要がある。